



2007・春
発行：法問寺
題字：鈴木裕子

俱会一処（くえいつしよ）・・・

この言葉は裏門前に作られている永代供養墓の正面お釈迦様に向かって右側に刻印されている言葉です。

俱会一処 水を因とし 土を縁とし いただいたこのいのち 今 地球におかえしいたします ありがとうございませした

俱会一処の意味は「①多くの人がともに一処に集まり会うこと②阿弥陀の浄土に往生して、浄土の人々と共に一処に会同すること」とあります。また因とは特に縁に対して直接の原因をさし縁とは原因をたすけ結果を生じさせる作用。直接の原因に対して間接的条件をさすとあります。人間として生まれ生きた証の運命は自然界にいかされたことを感謝するということにつながります。

この永代供養墓の中は納骨堂であり一つの墓に多くの方が集い供養されることとなります。春のお彼岸の中日にはお釈迦様の開眼供養が行われます。永代供養墓の使用の規定等は後日お知らせいたします。



法問寺花だより 鈴木裕子

二〇〇七年が始まったと思っていたら、あっという間に三月になりました。今年、暖冬、超暖冬で冬をあまり感じられないままに春を迎えてしまうようですね。異常気象は、地震など、天変地異を考えると、ちよっと憂鬱でもありますが、過ごしやすい冬だった方も多いのではないでし



ようか。そんな冬から春でも、花たちは、ちゃんと季節を感じて、きれいに咲いてくれます。紅梅、白梅は時期を少しずらして、いい香りとともに、咲き誇っていました。椿は「百合紋り」という、私が安行の園芸センタで七〇〇円で見つけてきた小さな苗でしたが、二年目の冬の今年、見事にたくさん花を見せてくれました。このクリスマスローズは、寺の門入ってすぐ右脇を振り返って見ていただくと、お彼岸でもま

だ、咲いていると思います！



そして、ご報告がひとつ！昨年インディのいない半年を過ごし我が家に、二代目アンジェリック（通称アンジー！）がやってきました。ハイパーやんちゃでちょっとビビリやな坊主ですが、また、皆さんにお目にかかる機会もあるかもしれません。どうぞよろしくお願い致します。！

- ☆任職と鈴木裕子の奉仕活動報告その他
- 十一月 日本赤十字社幼児安全法講習会 指導・日赤家庭看護法指導（鈴木裕子）
- 十一月防災士研修参加（8方面ハイパーレスキュー隊による人名救助法講習参加）
- 十一月二十一日東京都島嶼訓練（大島にて）赤十字救護ボランティアとして派遣現地高校生に包帯法指導（任職）
- 十二月七日 増上寺会場東京教区講習会ボランティア講座にてAED講習指導（鈴木裕子・任職）
- 二月 AED講習指導（鈴木裕子）
- ★十八年十一月～十九年一月までの計報
- 十一月十九日寂 櫻井はる様 八十九歳 紫光春英信女位
- 十一月二十一日寂 島田いく様九十八歳 観譽温篤郁容大姉位
- 一月八日寂 上原進一様 七十五歳 栄譽進徳信士位
- 二月十二日寂 久保雄雄様 八十一歳道譽霞暁清光居士位

◇編集後記 住職 ◇

昨年十一月はボランティアとしての防災月間でした。そのなかでもハイパーレスキュー隊による瓦礫の中から人を救助するという体験をさせていただきました。このレスキュー隊は新潟中越地震災害のときに崖崩れ現場から二歳の幼児を九十二時間ぶりに救出した人々です。最初に隊長から当時の様子を踏まえた話を聞きその後各グループに分かれての体験講習でした。大変すばらしい体験をさせていただきました。その二日後に東京都の島嶼訓練（二年おきに開催）会場の大島災害訓練会場で再度このレスキュー隊（別隊）と会い挨拶を交わしてきました。今年一月二十六日夜半には



赤十字救護ボランティアの仲間が上野駅でホーム転落者を救助して表彰されるという快挙がありました。後日、本人から救助の顛末を聞いたところ「日頃からこんなことの勉強をしていたから手をさしのべることが出来たようだ」という体験談を聞くことが出来ました。なかなかできる事ではないですが日頃の勉強がとっさの判断を（自分の安全を含め）させたのではないのでしょうか。体力の衰えを感じつつもうしばらくは救護関係のボランティアを続けてみようと思っております。